

第2回川越市台風第21号内水浸水検証委員会 会議要旨

- 1 開催日時 平成30年5月25日（金）午後2時から
- 2 開催場所 川越市立美術館2階 アートホール
- 3 出席者 田中規夫、青木宗之、及川康、古市秀徳、加藤智博、山科昭宏

4 会議の概要

(1) 開会

(2) あいさつ

田中委員長より、開会にあたってのあいさつを行った。

(3) 議事

【意見の概要及び質疑応答】

《(1) 第1回検証委員会の指摘事項について》(資料1-p1~p15)

○樋門操作の関係で、点検では樋門が自動的に上がることが確認されているが、当日は手動で開く操作を行っている。開く水位に達していなかったのか。その他の理由があったのか。

・点検では外水位8.5mで自動開放することは確認しており、機能は正常であったと考えている。当日は、内水が滞留している状況であったため、手動に切り替えて樋門を開けた。

○資料3ページの写真①は江川に向かって流れている。滞留した雨水が波打っている。また写真②では、マンホールから吹き出しているようだが、江川流域都市下水路に入らなくなった雨水が、道路上を流れているのか。または噴き出しているという現象と理解して良いか。分かる範囲で教えて欲しい。

・写真①の箇所では江川流域都市下水路は、道路下で函渠となっている区間であり、その下流側で開渠になる。道路上を伝って雨水が直接溜まったものと、下水道を通じて流れてきて、江川流域都市下水路に流れ込むことができずマンホールから噴いたものが混ざっているものと考えている。

○資料の中で、新河岸川についてはその計画に則って2日間雨量で整理し比較しているが、江川については6時間雨量でまとめている。江川のような小規模な流域の出水の特性を踏まえて、短時間の雨量で検討している旨の記載があった方がよい。

○指摘事項については概ねまとまっている。

《(2) 内水浸水原因の把握》(資料1-p16)

○江川流域は雨水が集まりやすい地形である。江川という名称の「江」からも分かるように、水が集まりやすいだけでなく、新河岸川に合流することで抜けにくい特性もある。このような特性は記載した方がよい。

- 樋門の操作は、操作要領に従って実施したと理解しているが、事務局としてもそのような理解でよいか。
- ・その通りです。
- 「操作要領に則り」、樋門を閉鎖したことを明示すべきである。
- 「その後も降雨及び新河岸川の水位上昇が続いたため」とあるが、正確には「樋門の閉鎖後も降雨が継続し水位上昇が続くとともに、降雨が終わった後も水位の高い状態が継続したため」と記載した方が現象を正しく表しているのではないか。樋門を閉めた後も一定期間開けられない状況があるので、それが分かるように記載した方がよい。
- 保水機能が低下するような土地利用の変化があった旨の記載をした方がよい。
- 樋門閉鎖の間において内水が滞留していく状況を表現する際は、読み方で色々な解釈ができるので、書きぶりを見直した方がよい。「低地から滞留」という文章だけを読むと、樋門付近の近い所だけ滞留したように読む人もいるかもしれない。
- ・見直します。
- 最終的なまとめ方は、グループ分けした方がよい。市民の方が見ても、分りやすくなるようにまとめて欲しい。
- 最後の部分には浸水が起きた原因をまとめるため、「樋門閉鎖の間、降雨が続いた」だけでなく、「雨が集中しやすく溜まりやすく抜けにくい地形特性」、「土地利用の加減による保水機能が低下している土地利用特性」、また、「前期降雨が多く、計画規模を上回る雨が降り、樋門を閉める中で多くの雨が降った降雨特性」、さらに、「河川の水位の上昇の時期と江川流域の水の集まる時期が一致した出水の特性」をすべて書き並べてまとめた方がよい。
- 複合的な要因が重なることで、このような被害が発生したことを読み取れるように工夫していただきたい。

《(3) 対策案の検討》(資料2)

- 資料1、2ページに今年度実施する項目が記載されているが、少し長い期間で実施していく対策として、例えば来年度に実施できる対策案はあるのか。樋門箇所での水位データをリアルタイムで確認することが重要であり、このような対策は行わないのか。監視カメラや水位計を設置しリアルタイムで樋門箇所の状況を確認できるようにした方がよい。
- 全体計画、長期計画の枠組みの検討も大切であるが、実践するには時間とお金がかかるものである。今回発生した浸水被害は、いろいろな悪条件が重なって被害が拡大していることから、このような内水被害を完全に防ぐ下水道の施設整備は困難である。市民の方に安心してもらうためには、短期的なソフト面での対策が不可欠と考える。国土交通省では、安価で設置できメンテナンスフリーである危機管理型の水位計設置を推進している。樋門箇所の新河岸川と内水側の水位をリアルタイムで把握することは、樋門を開けるタイミングを判断するためにも非常に重要と考える。
- 短期的な対策には、リアルタイムで見られる対策は不可欠である。操作要領は、外水位による操作以外にも、内水位と外水位との差によって操作できる規則もある。手で開けることで被害軽減が図られる可能性があるため、検討して欲しい。ハザードマップについては、避難経路及び避難場所を定めることも大事だが、避難勧告を出すタイミングや地域の方に知らせるタイミングも重要である。樋門閉鎖により、内水がど

れくらい溜まるか把握できたと思うので、リードタイムとして活かしていけるのではないか。今回の浸水状況を踏まえて、少しでも被害が軽減できるソフト対策の取組を検討して欲しい。

- 資料 4 ページは因果関係を分かるようにするため、原因に対してそれを軽減できるような対策を対比できる書き方に見直した方がよい。
- 下水道計画は、雨水だけの計画でも交付金の対象となる。長期的な計画を策定し、施設整備など恒久的な対策にあたっては、国や県もバックアップできる。早期に対策を進められたら良いと思う。
- 下水道計画の見直しに関しては、関係機関の協力体制を構築することが必要である。
- 短期的な対策としては、リアルタイムで水位が見られるように、監視カメラや危機管理型の水位計等による仕組み作りが必要と考える。
- 操作要領については、内外水位差の状況によって操作する方法や水位の設定、開け方を検討することも必要と考える。
- ハザードマップや避難勧告を出すタイミングについては、今回の浸水状況を踏まえ、短期的な検討が必要と考える。
- タイムラインや避難勧告等のルールを市民の方が理解できる取組方法を検討した方がよい。
- 原因と対策の対比と合わせて、「○」、「△」、「×」などの実現性や目標とする期間についても整理した方がよい。
- ソフト対策の整理においては、いつまでに、だれが、だれを対象として実施することを明確にした方がよい。
- 「内水浸水原因の把握」及び「対策案」については、次回までに整理し、もう一度議論する。

《その他》

- ・次回の会議は、6月29日（金）19時から、ウエスタ川越2階会議室1・2を予定している。
- ・次回会議は公開とする。

(4) 閉会